

推薦入学試験二期 小論文試験 (氏名票)

- (注)
1. 下の欄に受験番号、氏名を記入してください。
 2. この氏名票以外には、受験番号・氏名、その他本人とわかるしるしは、いっさい記入しないでください。
 3. 字数は 800～1000 字、時間は 60 分です。
 4. 横書きとしてください。
 5. ※印欄には、記入しないでください。

受験番号	氏名	※ 整理番号	※ 摘要

平成 31 年度上板橋看護専門学校

推薦入学試験二期 小論文課題

- 次の文は、看護学生である作者が実習経験を基に書いたものです。
文中で作者は、患者さんとの会話の“ズレ”の原因は何だと気づきましたか？
また、あなたは、看護師として共感的態度で接するために、どのような姿勢で臨みますか？ あなたの考えを800字以上～1000字以内で述べなさい。

身近にお年寄りと呼べる存在がいなかった私は、高齢者の方と話をすることに慣れていない。しかし、人と話すこと自体が苦手なわけではないので会話はなんとか続く。いわばキャッチボールはできる。問題はその後。… (略) …

ある患者さんが、これから受ける手術について話された時は、「そうですね。不安ですよ」と。手術後に傷について話された時は、「そうですね。痛いですよ」と返した。

ところが、その患者さんは、どちらの返事にも話の流れとは一転して、「いや、そうでもない」等と言う。

私は、「そうですか……？」と、再びとりあえずの返事をするしかなかった。

その患者さんの前に受けもったもう一人の患者さんは、手術は怖いと言っていたし、手術後の傷についても痛みがあり辛いと訴えていた。しかし、今回の患者さんは手術や傷の話をしながらも、怖くも痛くもないという。何が違うのか。そしてはっとした。

自分の中に、それらの物事に対する固定観念があったことに気づいたのだ。

「手術は誰でも怖いもの」、「手術はどれも痛いもの」という考えだ。

患者さんとの会話を思い出してみる。“どういう手術か”という話はしていたが、“怖い”とは言っていない。“傷跡が気持ち悪い”とは言っていたが、“痛い”とは言っていない。

* 出典：柳田 邦男／他 [編] 「その先の看護を変える気づき」内
佐藤 美幸著「共感的態度で」より